

令和2年度 学校評価アンケート結果について(報告)

高浦中学校長 立岩 一彰

I 保護者アンケートより

アンケート回答率は、87.9%（昨年度 86.9%）で、本年度新たに設問を1つ加えて、全19の設問に回答いただいた。新設を除いた18の設問のうち、8割を超える15の設問で昨年度と比べて3ポイント以上評価が向上しており、コロナ禍によって様々な制限や課題が課せられた1年であったにも関わらず、多くの保護者から本校の教育に対する理解ならびに支援・協力をいただいていることがこの回答に表れていることに、心から感謝したい。

(評価が向上した項目)

評価が向上している15の設問のうち、10ポイント以上評価が向上したのは次に挙げる5つ。

- ①『お子さんは、学校生活を楽しんでいる』の「よくあてはまる」(41%→53%)
- ②『お子さんは、健康な生活づくりに努めている』の「よくあてはまる」(62%→74%)
- ③『教師は、生徒の悩みなどの相談に適切に応じていると思う』の肯定的評価の合計(50%→62%)と否定的評価の合計(33%→15%)
- ④『教師は、いじめなどのない楽しい学級づくりや仲間づくりに努めていると思う』の肯定的評価の合計(59%→69%)
- ⑤『学校は、家庭への連絡や情報提供を積極的に行っていると思う』の「よくあてはまる」(26%→36%)、肯定的評価の合計(68%→81%)と否定的評価の合計(20%→10%)

①の肯定的評価の合計が83%と8割を超えたことは、本当にありがたい評価であった。②は新型コロナウイルス感染対策の徹底が家庭でもなされていることが背景にあると推測される。③④については、昨年度の学校評価アンケートにおいて、教師側の課題として報告した項目であり、努力して取り組んだことを、保護者の方々に評価いただいたことを、素直に喜ぶたい。しかし、否定的な回答の合計は減少しているとはいえ、③は15%、④は11%あることから、今後ともさらに、生徒一人ひとりを支えることができる教育相談のあり方を求め、教職員が一致団結して生徒が安心して学校生活を送れるように取り組んでいかなければならないと考えている。

(評価が悪くなった項目)

評価が悪化した設問は次の2つ。

- ①『お子さんは、部活動に一生懸命取り組んでいる』の「よくあてはまる」(54%→41%)、「あまりあてはまらない」(8%→20%)、肯定的評価の合計(73%→71%)と否定的評価の合計(17%→24%)
- ②『学校行事は、生徒にとって、楽しくて、充実したものとなっていると思う』の肯定的評価の合計(76%→71%)

①②とも、コロナ禍で臨時休業や部活動の各種大会の中止が続いたこと、感染防止の対策として3密回避が必要となり、文化祭の中止を筆頭に多くの行事が中止や縮小に追い込まれたことが影響していると推測される。5月末の学校再開から、生徒の体験をできる限り守るため、企画・対応を繰り返してはきたが、私たち教職員も消化不良の1年間であったことは否めない。来年度もコロナ禍は続くことが予想されるが、今後も町教育委員会との協議を重ねながら、他校との連携をより深め、可能な対応を探り、例年通りの生徒の活動・体験をできるだけ守り、部活動や各種行事を正常に近づけていきたいと考えている。

(総括・その他)

- ・教育目標に掲げている「感動」「感謝」「貢献」の達成度を測るため、『お子さんは、周囲の人への「感謝」の気持ちを言葉や行動などで表現している』という設問を新設した。その結果、肯定的評価の合計が70%であった。今後は、この数値をさらに高めるよう具体的な取組を展開していきたい。
- ・授業内容の理解、教師の授業改善の工夫という学習に関する2つの設問では、それぞれに改善傾向にある(否定的回答の減少)ものの、肯定的回答の合計が理解度と改善の工夫とも60%という数値であるので、新年度からの学習指導要領の全面改定やGIGAスクール構想の全県展開を大きな契機と捉え、「より分かる授業」に向けて、研修・研究を重ねていきたい。
- ・コロナ禍が1年以上継続する中、様々な制限によるストレスや教師や友人の言葉によって人間関係に悩みがある生徒が増えてきている傾向も見受けられる。その反省を踏まえ、繰り返しになるが、生徒への理解を深め、寄り添い、そしてより成長できる生徒指導を教職員が一つのチームとして、生徒に対応できるよう今後とも努力していかなければならない。

2 生徒アンケートより

アンケート回答率は、94.9%（昨年度 96.5%）で、本年度新たに設問を2つ加えて、全19の問いを設けた。新設を除いた17の設問のうち、これも8割を超える14の設問で昨年度と比べて3ポイント以上評価が向上しており、少しずつではあるものの、生徒が自分の言動に自信をもちつつあること、自分に対する肯定的評価が高まりつつあることがうかがえる。しかし、数値を詳細にみていくと、十分に満足の数値には至ってはいない。今後とも生徒の健やかな成長のため、努力を継続しなければならない。

（評価が向上した項目）

評価が向上している14の設問のうち、5ポイント以上評価が向上したのがほとんどである。

- ①『自分は、学校生活を楽しんでいる』の「よくあてはまる」(62%→68%)
- ②『自分は、学習や生活で目標を持って学校生活を送っている』の「よくあてはまる」(38%→46%)
肯定的評価の合計(73%→84%)と否定的評価の合計(22%→13%)
- ③『自分は、授業が楽しく、内容がよくわかる』の「よくあてはまる」(27%→32%)「あまりあてはまらない」(22%→12%)、肯定的評価の合計(66%→78%)と否定的評価の合計(27%→16%)
- ④『自分は、本をよく読んでいる』の「まったくあてはまらない」(19%→11%)、肯定的評価の合計(51%→58%)と否定的評価の合計(44%→34%)
- ⑤『自分は家庭学習を熱心に取り組んでいる』の肯定的評価の合計(66%→73%)と否定的評価の合計(31%→25%)
- ⑥『自分は、自ら進んであいさつがよくできている』の「よくあてはまる」(41%→55%)、否定的評価の合計(19%→14%)
- ⑦『自分は、健康な生活づくりに努めている』の肯定的評価の合計(69%→74%)と否定的評価の合計(28%→23%)
- ⑧『自分は部活動に一生懸命取り組んでいる』の否定的評価の合計(14%→9%)
- ⑨『自分は、学校行事や生徒会活動に一生懸命取り組んでいる』の「よくあてはまる」(43%→50%)
- ⑩『先生は、分かりやすい授業をしてくれる』の「よくあてはまる」(41%→50%)
- ⑪『先生は、生徒の悩みなどの相談に適切に応じていると思う』の「よくあてはまる」(42%→59%)
と否定的評価の合計(33%→15%)
- ⑫『学校は、いのちの大切さを考える学習や人権学習に力を入れていると思う』の「よくあてはまる」(57%→66%)、肯定的評価の合計(86%→94%)と否定的評価の合計(8%→3%)

①の肯定的評価の合計が90%、②が80%に達したことは、学校として、本当に嬉しい評価であった。③で授業がよく分かるが80%間近になってきていることに加えて、③④⑤の評価向上は、確実に成績向上に結びついていると思われる。⑥は、自信を持って大きな声であいさつができる生徒が増えている裏付けである。⑦は保護者と同様で、新型コロナウイルス感染対策の徹底ができていくことが背景にあると推測される。⑧は保護者の回答結果と異なる結果であり、総体の代替大会や夏以降、無観客試合が多いものの、各種大会が開催されるようになってきているためだと推測される。⑩⑪については「よくあてはまる」の数値が大きく高まった。特に⑪の17%増の結果は、今後さらに生徒に寄り添っていきこうとする私たちに力をくれる評価である。⑫の評価向上は、教職員のアンケート結果と連動している。教師の取組は必ず多くの生徒に伝わっているという証である。

（評価が悪くなった項目）

評価が悪化した設問は、『自分は、清掃活動にまじめに取り組んでいる』の「あまりあてはまらない」(7%→10%)の1つだけであった。

現在、「キャリア教育」の充実に取り組んでいるところである。教育目標の「感謝」「貢献」とも絡めながら、生徒の勤労意欲を高め、意義を知らせる取組をさらに継続していきたい。

（総括・その他）

- ・教育目標に掲げている「感動」「感謝」「貢献」の達成度を測るため、『自分は、周囲の人への「感謝」の気持ちを常にもっている』『自分は、地域や社会の役に立つために何をすべきか考えることがある』という設問を新設した。その結果、肯定的評価の合計が84%、76%であった。今後は、この数値をさらに高めるよう具体的な取組を展開していきたい。
- ・『先生は、わかりやすい授業をしてくれる』『先生は、いじめなどのない楽しい学級づくりや仲間づくりに努めていると思う』の評価は改善しているが、「わからない」と回答した生徒が双方に10%であった。この10%を否定的評価に組み入れるぐらいの意識をもって、さらに改善していく意欲を高めたい。
- ・本校でも、コロナ禍の影響が、生徒の心を蝕んでいるわずかな徴候も見受けられるようになった。今年の評価の改善傾向が今後も継続していくように、反省を忘れず、教職員が一丸となって、生徒のサポートの質を高める努力を続けなければならない。

3 教職員アンケートより

すべての教職員から回答を得ている。総じて、回答からは大きな課題は見受けられないが、設問4の『生徒の読書量は、昨年と比べて増えていると思う』は、昨年度と比較するデータ不足から「わからない」の回答が40%あった。アンケートに設定しているのに、教職員が検証できる資料収集を実施していなかったことは大きな反省点である。もしくは、保護者や生徒を対象とした設問『読書に親しんでいる』『本をよく読んでいる』等に改め、単年における評価を問う設問にすることも考えられる。生徒の実態としては、学校における8:00～8:20の朝の自主学習の時に、セミナーを終えた生徒の多くは本を開いて静かに読書をしている生徒がほとんどである。読書量をどのような基準で捉えるのかの共通理解をしなければならない。

設問8～設問19については、私たち教職員や学校の取組の評価であるため、否定的評価は0%に、肯定的評価の「よくあてはまる」の割合を1%でも増やしていくように、今後とも取り組んでいかなければならない。設問8～10, 13～15, 17の回答は改善が見られ、11と12は昨年度とほぼ同じで、多くの項目で評価改善は見られる。しかし、設問18の『学校は、地震・津波・不審者など、危機に対応する指導ができていていると思う』の評価がやや悪くなっている。形だけの対応策にならないよう、様々な工夫を凝らすなど対応することが来年度の課題としてあげられる。また、設問16の『学校行事は、生徒にとって、楽しくて、充実したものとなっていると思う』の「よくあてはまる」の評価が(63%→45%)となっているのは、保護者のアンケート結果で述べた内容と同じになるが、コロナ禍で臨時休業や部活動の各種大会の中止が続いたこと、文化祭の中止を筆頭に多くの行事が中止や縮小に追い込まれたことで、教職員も歯がゆさを感じての結果だと推測される。

4 まとめと保護者からの記述より

保護者の理解と支援、教職員の熱意ある取組を両輪として、コロナ禍においても、全体的には学校評価アンケート結果が昨年度よりも向上していた。この結果に「力」を得て、学校は、この向上する数値をさらに上昇させ、「よくあてはまる」の割合を100%に近づけていくことを目指して今後も取組を継続させていかなければならない。向上しているとはいえ、十分に満足できる結果には至っていないことを心にとめ、協議を重ね、教職員がスクラムを組んで、日々、生徒に寄り添いながら成長を促していく決意を新たにしなければならない。

また、保護者からは、私たちの取組に対して厳しい意見も寄せられている。その意見を真摯に受け止め、信頼を得る努力を継続する必要がある。アンケート結果から、多くの保護者や生徒たちが、学校の取組をしっかりと受け止めてくれていることに意識を向け、日々の教育活動をさらに高めていきたい。最後に私たちの取組を肯定的に受け取り、励ましてくださっている保護者の意見を紹介して、学校評価のアンケート結果の報告とする。

“子供の悩みをよく聞いてくださり、本当に助かっています。素早く細やかな対応をしていただけるので、安心してお願いできます。毎日笑顔でいられるのが1番！悩みを持っている子ども、だれかにいやな態度をとってしまう子ども・・・みんな様々な思いを抱えていると思いますので、難しい年頃で大変なことも多いかと思いますが、今後どうぞよろしく願いいたします。”